NPO 法人 むさしの・多摩・ハバロフスク協会会報

プリローダ

第63号
（NPO 第15号）

【ПРИРОДА】プリローダ＝ロシア語で"自然"という意味をあらわす

発行；2017年1月1日

むさしの・多摩・ハバロフスク協会は、東京都武蔵野市で生まれた、「寒帯林保全」、「自然体験活動」、「国際交流」などを行う NPO 法人です。

植林ボランティアツアーinハバロフスク
2017年はシベリア鉄道を利用して ロシア極東の二大都市を訪れます！

明けましておめでとうございます。
昨年は協会20周年を迎え、皆様のお力添えを頂き、さまざまな記念行事を行うことができました。
協会スタッフ一同、心から感謝申し上げます。
本年は気持ちも新たに、植林・環境教育・国際交流事業などに励んで行きたいと思いますので、
今後ともよろしくご支援ご協力のほどお願い申し上げます。

さて、2017年の植林ボランティアツアーは４月30日（日）～５月６日（土）までの６泊７日間で実施予定です。新しい植林場所として、2013年のアムール河大洪水で被害を受けたシカチアリャンを選定して実施します。少数先住民族ナナイ人の村で、ハバロフスクから北へ50キロほどの場所です。今までトロイツコエで植林活動に参加してくれていた子どもたちも駆けつけてくれるそうです。

ハバロフスク市内の植林は、今年も太平洋国立大学の学生が参加してくれます。大学構内で行われる環境セミナーは、今回で９回目となります。座学と植林体験の両方の実践は大変好評で、これからも続けていきたいと思います。

1998年にワロニシ地区に友好の森を築き、ヘフィツール地区（友好の森Ⅱ）・ナナイ地区（友好の森Ⅲ）・クトーゾフカ地区（友好の森Ⅳ）と続き、シカチリャン地区は友好の森Ⅴとなります。これまでの植林本数は５万本を超え、植林面積は約40haとなりました。

今回のツアーでは、シベリア鉄道を利用してウラジオストクに向かい帰国します。二人部屋の寝台車両を１台占有して快適な旅をお届けしたいと思います。2012年のＡＰＥＣサミットが行われたルースキー島をはじめとした市内観光も行いますので、ご期待の上、よろしくご応募下さいませ。

ナナイ地区における植林

シベリア鉄道　ウラジオストク駅

太平洋国立大学（ロシア連邦ハバロフスク市）学生派遣

「持続可能な社会構築のための大学間交流プログラム」写真報告

日　程　：　2016年10月11日（火）～16日（日）
参加者　：　武蔵野大学　10名、東京外国語大学　４名
団　長　：　矢内秋生　教授（武蔵野大学）
引　率　：　安藤栄美（ＮＰＯ法人むさしの・多摩・ハバロフスク協会理事長）
共　催　：　日露青年交流センター

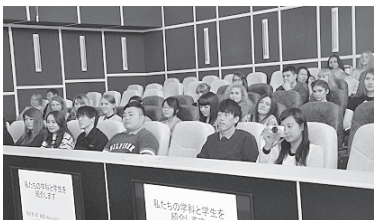
10月11日（火）　成田空港14：25発　Ｓ７航空568便にて出発。ハバロフスク空港18：15着。太平洋国立大学国際部担当者と通訳のクチュク・ワレリーさんの出迎えを受ける。

10月12日（水）　10時より太平洋国立大学セミナー講堂にて、自然利用・環境学部　リャブヒン・パーベル学部長とヴィヴォツェフ・ニコライ学科長の出迎えを受け、セミナーを始める。

テーマを「都市部における生態環境の再生の近代技術」として、１．武蔵野大学環境学科と学生のいま（武蔵野大学学生）２．ハバロフスク市における植樹（太平洋国立大学学生）３．Amugun金採掘企業の許容排出基準の作成（太平洋国立大学大学院生）４．私たちの大学（東京外国語大学学生）５．電磁界による種子播種品質改良の研究（太平洋国立大学大学院生）６．太平洋国立大学と武蔵野大学との多様な交流への期待（矢内秋生／武蔵野大学教授）の発表が行われた。

学食で昼食を頂いたあと、太平洋国立大学内のＩＴ研究所・環境試験室・金属加工室・電子顕微鏡試験室などの施設を見学させて頂いた。

16時からハバロフスク市営児童施設エコロジーセンターを視察。環境教育の教材の説明や動物の飼育室・植物の育成室を見学。施設の庭の樹木は、2013年の大洪水の被害を受けたそうだが、しっかりと残っていた。



10月13日（木）　午前中いっぱいをかけて、太平洋国立大学構内において記念植樹を行う。17年生のチョウセンゴヨウを16本、日露の学生が協力して植えることができた。その際、ハバロフスク地方政府森林管理局の取材も受ける。

午後はアムール川魚類博物館を見学して、アムール河畔のウチョース展望台周辺を散策。ムラヴィヨフ・アムールスキーの銅像やウスペンスキー大聖堂の中にも入り見学した。

16時30分より在ハバロフスク日本総領事館を訪れ、山本広行総領事と面会。広い地域を管轄していることや日本との貿易総額などを伺った。

10月14日（金）　午前中は市内観光を行い、ハバロフスク駅、スパソ・プレオブラジェンスキー大聖堂、栄光広場を見学。市民の憩いの場の公園にもなっている街中の植物研究所も見学し、レーニン広場近くの本屋においてショッピングを楽しんだ。公園では花嫁が記念の写真撮影を行っており、ついでに一緒に写真を撮らせていただいた。

午後からは郊外のネクラソフカ村にある「ハブスペツホズ」苗木栽培企業を視察。大学で記念植樹をした苗木が、どのようにしてつくられたのかルーツを探った。機械化された種付け装置や自動散水機のついたビニールハウスなどを見学した。ロシアでは春以外に秋にも植林をするそうで、出荷の準備が進められていたが、まずは冷蔵庫に保管して苗木を眠らせるそうだ。

夕方からはワロニシ地区にある小動物園に向かった。アムールトラやクマ、オオカミなどがおり、その遠吠えに感動した。

10月15日（土）　午前中は太平洋国立大学の構内にある植物園の散策とのことだったが、実は特別に植物園という場所があるのではなく、構内周辺すべてが植物園として登録されているとのことだった。ニコライ学科長のていねいな説明に、通訳さんを補助するため電子辞書を使って植物名を確認しながら、話を伺った。トウヒとモミノキは見た目はよく似ているが、葉の触り心地が全く違うこと、ダウリアカラマツは水分を含むとどんどん締まって硬くなることなどを実物を目の前で確認しながら教わることができた。その後、大学近くの公園に移動し、聖セラフィム教会や結婚式場の建物、聖なる水の泉などを見て回った。

午後からは路線バスで郷土史博物館に向かい、極東・沿海地方の歴史・自然・風俗に関する資料が満載されている展示を堪能した。

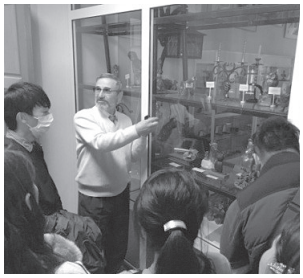
18時からは、交流中にお世話になったボランティアの方々（太平洋国立大学と合併した人文学部の日本語を学ぶ学生

や自然利用・環境学部の学生）や大学関係者、ハバロフスクに留学している日本人の方々、太平洋国立大学で日本語教師をしている田中亜紀子さんなどをインツーリストホテルにお招きして「さよならパーティー」を開催した。

太平洋国立大学の生物学のグリック・ビクトル先生がハバロフスクに生息する鳥類の映像を披露して下さり、プレゼント交換なども行い、大変盛り上がった。

帰りは、大学で用意してくれたバスに乗り、ボランティアの学生たちを所どころで降ろしながら、大学の寮に戻ったが、その後も近くのスーパーで買い物を楽しんだ。

10月16日（日）　９時に集合して空港に向けて大学の寮を出発。途中、日本人墓地に立ち寄り、お参りをした。空港に着くとボランティアでずっとサポートしてくれていた、自然利用・環境学部のゼンキナ・オリガさんとスタルノヴァ・ナタリアさんが見送りに来てくれており、最後までサポートしてくれた。ハバロフスク空港11：50発　Ｓ７－５６８便で帰国の途についた。


大学施設の見学（金属加工研究室）

将来の姿を語るパーベル学部長

キャンパスでの記念植樹

記念植樹を終わっての笑顔

市内観光で打解けてきた学生たち

雄大な，しかし寒いアムール河岸

慰霊碑の前でも若者たちは明るい

植物研究所で新郎新婦を祝福

ハブスペツホズ苗木栽培企業視察

育種の種子投入の自動化に興味

馴れてきた宿舎から大学の道

大学近くの公園の散策（どこも広い）

日本人墓地でのお参り

さよならパーティーでは
親密な会話が
あちこちで交わされる

さよならパーティーでの記念撮影

＜太平洋国立大学派遣プログラムに参加した学生たちの感想＞

◎私が最も心に残ったことは最終日の朝に立ち寄った日本人墓地での参拝です。こんなにもいろんな人がこのハバロフスクで亡くなっていることに驚きました。この人たちが頑張ったからこそ、今の私たちがいる、今の日本がある、そのことを実感しました。そして感謝して生きていかなければいけないと思いました。

◎人と人とが交流するときは言語なんて同じではなくても、「仲良くなりたい」「お話ししたい」という気持ちさえあれば良いのだとあらためて気づかされました。

◎一方で、より相手を理解するためには言葉や相手国へのある程度の知識は必要なものであり、それがないと誤解を生んだり、理解できずに終わったりすることも多くあるということも実感させられ、語学学習への意欲を再確認することもできた。

◎ロシア有用種のチョウセンゴヨウを実際に大学キャンパスに植林させて頂き、身近な環境をつくっているということを実感し、今までとは違った環境改善を考える良いきっかけになりました。

◎参加して強く思ったのは、環境問題は、やはり日本だけの問題ではなく世界共通で問題視されているのだということです。

◎エコロジーセンターを見学させていただきロシアの地でも環境教育に力を入れていることを知ることができた。その教育活動は環境問題だけでなく、生態系など広い領域にわたって行われており、日本の施設も参考にできることが多くあり、とても勉強になった。

◎ダウリアカラマツという木を見たのだが、この木は普通の木と違い水分を含むとさらに硬くなる性質があるそうだ。だが、水分を含んで硬くなるのなら、重さも変わってくるにちがいないなどの疑問がわいてきた。それだけではない、水分を含むと硬くなる原理も知りたくなった。

◎ロシアの木材の輸入先の第一位は中国であるが、その後中国で加工された木製品が大量に日本に輸入されていることを知った。原木も大量に輸入されていて、ロシアでの森林がなくなれば日本で木材の確保に困ることだろう。

◎ロシアの学生の発表で最も印象に残っていることは、皆、自分の発表に自身を持っていてかつ、堂々としている印象でした。また、発表中、会場を和ませるような雰囲気もつくっていたことも印象深かった。

◎私がハバロフスクで一番印象に残った料理は、マッシュポテトである。粘り気があり、口触りがよくとても美味しかった。

◎ロシアの方は初対面にも関わらずフレンドリーに話しかけてくれる。また、レディーファストを徹底的に行ってくれる。日本にはこういった風潮や習慣がないので、初めは慣れなかったがやがて「日本人も、もっとこうなったらいいのに。」と思ったりした。

◎日本ではお客様が最も大切であり、お客様にいかに気持ち良く買い物してもらうかが重要であるが、それは日本特有の「おもてなし」で、これが日本の良さでもあることを外国に行くことで改めて実感した。

◎ハバロフスクは地方都市であり、物流や中心街の町並みは東京と比べれば相対的には「後進」ということになるでしょう。しかし、人間が人間らしく生きていき、人間以外のものと共生していくための教育は、東京を遥かに上回っていると思いました。

◎いかに日本では「ロシア」という国に対するイメージが曖昧で、そのイメージはロシアの氷山の一角であるかを実感した。

プリローダ　第63号

発行日	平成29年１月１日
発　行	ＮＰＯ法人むさしの・多摩・ハバロフスク協会
住　所	東京都武蔵野市吉祥寺東町1－15－25
TEL/FAX	0422－23－5351
E-mail	mail@mtxa.org
ＵＲＬ	http://mtxa.org/
発行人	安藤　栄美
編　集	田﨑　桂子
広報委員	依田和也、北爪達也、永田秀樹、木﨑　剛、落合　恒、内田　央、内田　周
印　刷	巧芸印刷(株)

編集後記

学生たちがロシアで体験した感想は、どれも有意義な内容でした。きっと今後の人生に活かされることでしょう！

今年の植林では、ハバロフスクに加えウラジオストクも訪問します。

シベリア鉄道の旅は、ひと味ちがった趣があることと思います。